

(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

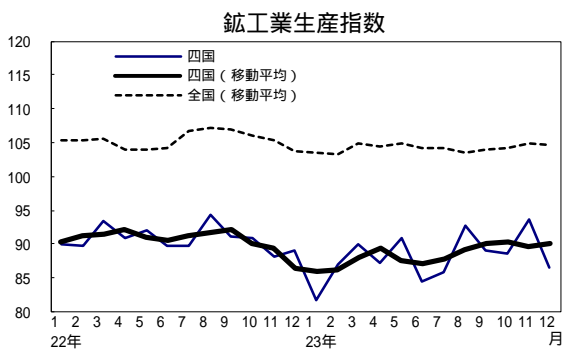
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年11月)	今回 (令和6年2月)	
個人消費	緩やかに持ち直している	<u>持ち直しに足踏みがみられる</u>	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 0.3% 増となった。月別にみると、10 月は化学・石油石炭製品が減少したこと等により前月比 0.4% 減、11 月は化学・石油石炭製品が増加したこと等により同 5.6% 増、12 月は化学・石油石炭製品が減少したこと等により同 7.7% 減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
化学・石油石炭製品	22.1	5.9	3.7	11.7	18.1	17.8
食料品	13.8	0.7	3.8	4.2	0.0	0.1
電気機械	12.8	2.2	4.8	11.9	3.1	4.2
汎用・生産用機械	11.3	3.5	9.1	12.9	9.7	17.7
輸送機械	7.9	2.7	18.6	14.7	6.3	2.0
鉱工業	100.0	1.8	0.3	0.4	5.6	7.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 2015 年 = 100 (全国は 2020 年 = 100) 季節調整値。
四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心 3 か月移動平均。
直近月は 2 か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

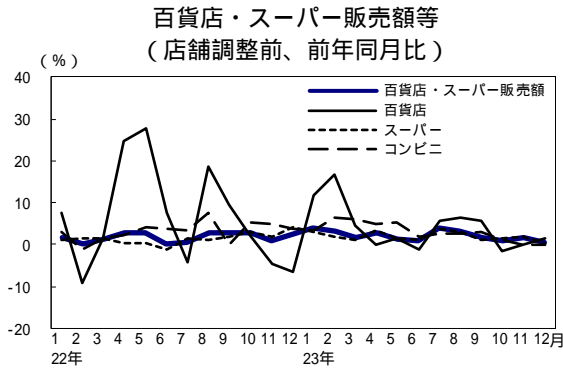
10 - 12月期は前期比0.4%増となった。月別にみると、10月は前月比0.8%増、11月は同0.3%増、12月は同0.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比0.9%増となった。月別にみると、10月は前年同月比1.0%増、11月は同1.6%増、12月は同0.4%増となった。

百貨店は、10 - 12月期は前年同期比0.0%増となった。

スーパーは、10 - 12月期は同1.1%増となった。



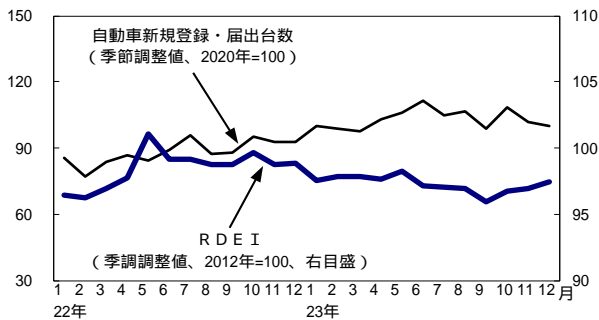
	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.4	0.8	0.3	0.5
百貨店・スーパー(*2)	0.9	1.0	1.6	0.4
百貨店(*2)	0.0	1.6	0.2	1.5
スーパー(*2)	1.1	1.4	1.9	0.2
コンビニ(*2)	0.4	1.2	0.1	0.2
乗用車(*3)	10.5	14.9	10.1	6.5
(季節調整値)(*3)	0.1	9.8	5.9	2.0

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移

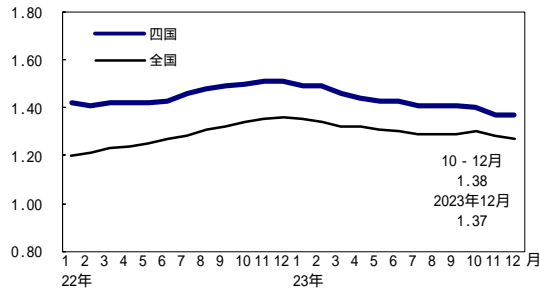


3. 雇用情勢

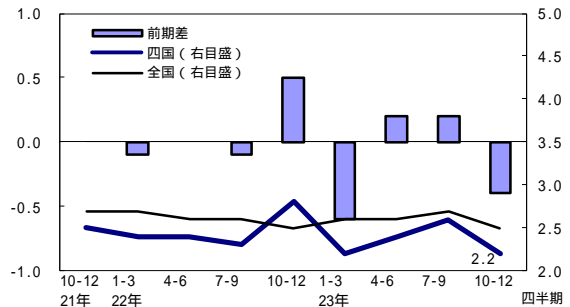
雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P9 参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値) (%)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

10. 四国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・正月明けから受注量は前月と比べ多少増えた印象もあるが、後半になるに従い前月と比べて鈍くなったようにみられる。例年であれば、年度末に入ると品物の動きが活発になるが、今のところその気配はない（一般小売店〔文具店〕）。
		▲	・来客数は、ほぼ前年並みの推移であるが、売上が減少している。商品単価が上昇しているなかで買い控えがみられ、消費が減少傾向にあるようにみている（コンビニ）。
		○	・インターネット販売が好調である（旅行代理店）。
	企業 動向 関連	□	・青果物全般では、荷動きが低調に推移している。平年どおりの市場入荷であれば単価はやや安くなる。逆に平年を下回る入荷の場合は単価がやや高まるが、爆発的な価格上昇は起こりにくい状況が続いている（農林水産業）。
		○	・バイオマスなどの再生可能エネルギーの仕事をしているが、少しずつ仕事が決まりだしている。バイオマスで肥料を作っており、これが売れ出したためである（電気機械器具製造業）。
		▲	・受注量が減少しており、厳しい状況である（建設業）。
		◎	—
		×	・受注が大幅に減少しており、特に戸建て住宅が減少している。そのなかでも注文住宅が材料の価格高騰により住宅メーカー各社が販売価格を引き上げ、販売が鈍化している。この傾向はしばらく継続する見込みである（木材木製品製造業）。
	雇用 関連	□	・以前と同様に、派遣に登録する求職者の数が少なく、就労に結び付いていない状況が続いている（人材派遣会社）。
		▲	・業界的なことなのか単価が下がり手間が増えている（新聞社〔求人広告〕）。
その他の特徴 コメント		□：東京本社の手回りのCMが多かったが、地元企業の広告は少なく、トータルで変わらないという評価（通信業）。 ▲：諸物価が上昇するなかで、客は自動車の購入に対して慎重になっている（乗用車販売店）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・食品は変わらず堅調に推移しているが、気温の影響もあり衣料・住居関連品が苦戦している。総合スーパーとしては、全体として良くも悪くもなっていない（スーパー）。
		○	・新生活シーズンに伴う需要の活性化に伴い、来客数は増加すると想定される（通信会社）。
	企業 動向 関連	□	・人手不足による採用関係の仕事は増えているが、多くの客先の販売促進計画は依然として削減傾向が予想されており、全体としては大きく変わらない見込みである（広告代理店）。
		○	・12月は年末の掃除用にウェットクリーナーを購入する人が増え、売上が増加したが、その反動で1月は売行きが悪くなる。また、キッチンペーパーの原紙をすく当社機械の改修が長引いているため、キッチンペーパーの供給が減少しており、売上が減少しているが、今後は改善され今月より良くなるとみられる（パルプ・紙・紙加工品製造業）。
	雇用 関連	□	・地方中小企業においては、中途・新卒とも採用難が継続しており、大きな解決策がないため人員確保に苦戦する状況が続くとみられる（求人情報誌）。
	その他の特徴 コメント		○：春先の様々なイベントがゴールデンウィークにかけて準備されている。週末中心にインバウンドを含めた観光客など、多くの人が動く予想される（商店街）。 □：様々な物価高騰により、交際費が以前よりも増加している。建設業界では2024年問題に対する不安があり、先行きが不透明である（設計事務所）。

(D I) 現状・先行き判断D I（四国）の推移（季節調整値）

